



子どもたちの「レジリエンス」を高める

令和6年は元日から大きな自然災害が発生しました。毎日、能登半島地震のニュースを見ながら8年前の熊本地震当時のことを思い出しています。あの時も全国から消防、自衛隊、医療関係者やボランティアの方に来ていただき、様々なことで助けていただきました。感謝の気持ちは今も消えません。当時、学校は臨時休校となりました。学校職員は自分も被災しながら、子どもたちの安否確認や学校施設・通学路の安全点検、学びを止めないための家庭学習プリント集の作成、体育館が避難所となりトイレの清掃や支援物資の配給の手伝い等、献身的に働いてくれました。その4年後、熊本地震の傷がまだ癒えない中に、熊本豪雨が起こりました。このときも全国から多くの方が助けに来ていただきました。私の妻の実家も床上浸水し、その片付けに7人ほどボランティアの方が来られました。捨てるしかない家具や畳の運び出し、泥の掻き出しなど、一生懸命作業してくださり大変助かりました。まだ仮設住宅にお住まいの方もいらっしゃると思いますが、熊本は多くの人の協力を得ながら、2つの大きな自然災害からの創造的復興に向けて、今も着実に歩みが続けています。

今後も大きな自然災害が起こるでしょうし、社会の変化が激しく予測が難しい世の中を子どもたちは生きていかなければなりません。そこで、子どもたちの「レジリエンス」を高めていくことが、とても重要だと考えています。

レジリエンスとは、「困難な状況に適応し、立ち直る力」「回復力」「折れない心」のことです。レジリエンスが高まると、子どもたちは困難な課題や障害に対して前向きに取り組んだり、より適切に対処したりできるようになります。また、失敗や困難にも耐えることができ、学習への意欲が高まり持続的な学習の継続が可能となります。さらに、他者との関係をより良く築く能力（コミュニケーションや協力のスキル）が高まり、協力して問題解決に取り組む力が培われます。

子どものレジリエンスを高めるには、次のようなことが大切だと考えます。

- 自己肯定感を高めることや、失敗を恐れずに挑戦し、失敗から学ぶことができるようにしていく。
- 目標を設定し、それに向かって努力することを通じて、自分をコントロールする力や自己効力感を養う。
- チームワークや協力を重視した活動を通じて、他者の感情に共感し、協力やサポートの重要性を理解させ、思いやりの心や責任感を育む。



このほかにもレジリエンスを高めるためのポイントはあると思いますが、上記の3点は特に学校や家庭で意識して取り組んでいきたいことです。子どもたちが、人生をよりよく生き抜いていくために、学校と家庭の連携の中でレジリエンスを高めていきましょう。

芸術鑑賞会

生の音楽に触れることで、学校生活にうるおいをもたらす、子どもたちの感性を高めるために、1月19日（金）の2・3校時に、芸術鑑賞会を実施しました。今年お招きしたのは、八代出身のハンドフルート奏者の高山大知さんです。ピアノ伴奏の黒木遼さんと共に、子どもたちがよく知っているアニメの曲からクラシック音楽まで、たくさんの曲を演奏していただきました。子どもたちは、ハンドフルートの柔らかく温かい音に静かに聴き浸っていました。途中でハンドフルートの音の出し方を教えていただき、しばらく挑戦しましたが、なかなか音を出すのは難しかったようです。その分、高山さんの演奏技術のすごさを感じました。



